

筑西市立明野中学校 三年

祖母の目になる

堀^{ほり} 江^え 乙^{おと} 花^か

「おとか、見てごらん。きれいな空だね。」

私は、幼い頃、そんな会話をしながら手をつないで歩く、祖母との散歩が大好きでした。しかし、あの頃のようなきれいな景色が祖母の瞳に映ることはありません。

私の祖母は網膜色素変性症という目の病気を患っています。網膜色素変性症とは、暗いところではものが見えにくく、だんだんと視力が低下していく進行性の病気です。祖母の目は、今ほとんど見えていません。

祖母の生活には苦勞がつきまといまいます。自宅では、これまで積み重ねてきた経験と感覚で必要最低限の生活を送ることができていますが、どうしても人より時間がかかってしまいます。部屋の移動一つをとっても、ものが落ちていたら大きな怪我につながる恐れがあるので、必要以上に気

を遣う必要があります。

外出にいたっては困難と危険の連続です。慣れている自宅とは勝手が違うため、誰かの支えなしに行動することは困難です。補助についてくれる人に手を引いてもらい、段差があれば声を掛けてもらい、階段なら一段一段上り下りするので、時間もかかります。

そうすると、人にぶつかってしまうことが度々ありました。一見すると、祖母は健常者のように見えるので、周りを歩く人によってはいぶかしげに見られることもありました。見た目に差がないと、事情をなかなか理解してもらえないこともあり大変です。

目が不自由であることを理由に、祖母は外出を断念してしまうことがあります。祖母の気持ちを思うと、私は悲し

くなります。もっと気兼ねなく、祖母が出かけられる場所が増えていくといいのにと。そう思わずにはいられませんが。

ただ、最近は町のいたるところで「バリアフリー」を目にするようになりました。聞いたことがある人も多い「バリアフリー」とは、文字通り「バリア」、つまり「障壁」を取り除き、生活しやすくすることを意味します。これによって、障害をもつ人や高齢の方の生活が改善されるのです。

祖母の病気をきっかけに、私は様々なバリアフリーについて調べました。駅構内を歩く人のための点字ブロックは、ホーム側と線路側がわかるように「ないほうせん内方線」が付けられています。車椅子を利用する人や階段を上昇することが難しい人のために、多くの店でスロープが付けられるようになりました。食品にもバリアフリーがあり、牛乳パックは他の飲み物と区別ができるよう、容器の上部に「切欠き」というくぼみがついています。

調べていくとたくさんバリアフリーがありました。このようにバリアフリーが社会が増えてきているようでも、それでも祖母の生活はまだまだ不便なことが多いように思えます。祖母との外出で「こんなところが祖母にとっては

不便じゃないか。」「もつとこうだったらいのに。」と思っただのは、一度や二度ではありません。きっと祖母と同じような境遇にいる人はいるはずですが。祖母と同じでなくても、世の中の何かに対して不便を感じている人もいます。誰にとってももつと生きやすい世の中になってほしいのですが……。

祖母は、いつも私に「ごめんね。ありがとう。」と申してくれます。その顔はとても申し訳なさそうで、なんだがやるせない気持ちになります。体が不自由な人を支えることは、当たり前のことだと、私は思っています。

皆さんにお願いです。世の中に不便を感じている人、不自由な思いをしている人を見かけたら、手を差し伸べてもらえないでしょうか。そのうちの一人がきっと私の祖母です。誰もが生きやすい世の中への一番の近道は、世の中の人々が支え合って生きていくことだと思います。

幼い頃、私の手を引いて一緒に歩いてくれた祖母。今は、私が祖母の目となり、隣りを歩き、見える景色を伝えていきます。

「おばあちゃん、きれいな空だよ。」
私が手を引いて。